

伊予市

じんけん教育

一人ひとりの人権が尊重される
明るい伊予市をめざして



2021
No. **37**



■編集・発行
伊予市教育委員会
愛媛県人権教育協議会伊予市支部
〒799-3113 伊予市米湊 820 番地
TEL 089-982-5155 FAX 089-982-5156



北山崎小 4年 栗田 梨花

人権ポスター
最優秀作品
小学生

伊予市人権啓発作品の紹介



北山崎小 5年 高石 凜

今年度も人権啓発・人権意識の高揚を目的として、人権啓発作品を募集したところ、たくさんご応募いただき誠にありがとうございました。

応募数は、小学生328点、中学生96点、高校生19点、成人112点、総数555点でした。最優秀、優秀に輝き入賞された皆様おめでとうございます。



北山崎小 6年 岡田 哲昌

人権ポスター 最優秀作品 中学生 高校生



双海中 2年 大野 葵



伊予中 3年 大西 奈々



伊予中 3年 山本 一瑠

うれしかったこと

北山崎小学校

四年 篠崎 なづな

夏休みに
弟が生まれた
病院から帰ってきたお母さんの手に
小さな弟がいた
顔をのぞきこむと
とてもかわいかった
だっこすると
ちよつと重たかった
名前は「太陽」
名前のようにみんなを
明るく照らす存在だ
これから太陽が
いい子にやさしく
育ってほしいな
私の弟として生まれてくれて
ありがとう



ちぢまるきより

由並小学校

五年 石丸 結愛

はじめの一步
勇気をもって話しかける
おたがいの
心のきよりがちぢんでいく
知りたい
みんなの本当の気持ち
伝えたい
わたしの気持ち
受け止めたい
あなたの気持ち
小さな一歩を重ねていくと
ちよつとずつ
おたがいのことが
わかっていく
心のきよりがちぢまると
安心というつながりが生まれる
おたがいに
ちぢめていきたい心のきより

一人の笑顔

郡中小学校

六年 山中 愛結

一人の笑顔

それにつられて二人目が

それが広がりクラス中

みんなが笑顔でつながる

けんかする

でも仲直り

そして一人の笑顔

けんかしていたもう一人も

それにつられて笑顔になる

周りでのいやかな気持ちになっていた

みんなも笑顔でつながる

こけて泣く

泣いていた子をなぐさめる

泣きやみ笑顔

なぐさめていた人も笑顔になる

周りで心配そうにしていたみんなも

笑顔でつながる

これらのくり返して

みんなが笑顔それにつられて世界中

世界中が笑顔でつながる

ヒーロー

港南中学校

三年 細川 さくら

この世界は悲しいことで満ち溢れている

今この時も差別・いじめ・誹謗中傷で苦しんでいる人がいる

助けを求めたくても求められない人がいる

だから私は誰かを助けられるヒーローに

人々を幸せにできるヒーローに

世界を平和にできるヒーローに

なりたい

でも、私はそんなヒーローにきつとなれない

普通のどこにでもいる人間だから

でも、相手の気持ちを考えること

相談にのること

苦しみを分かちあうこと

隣にすること

私なりにできることはたくさんある

この世界を救うヒーローになれないかもしれない

でも、誰かの小さなヒーローになることができる

私は誰かの小さなヒーローになりたい





「差別」について考える

郡中小学校

四年 渡邊 拓末

ぼくのおばあちゃんは、まんせい関せつリウマチという病気です。リウマチは障がいになるそうです。おばあちゃんが三十三才の時に、リウマチになったそうです。おばあちゃんがなぜリウマチになったのかは、まだ分かっていません。リウマチは、関せつがいたみ、ほねが変形し、全身の関せつに障がいを残す病気です。

おばあちゃんがリウマチ

になった時は、今の時代のように医学も進んでいなくて、いたみを止める薬だけしか出してくれていなかったそうです。いたみをおさえるだけなので、おばあちゃんのほねの関せつは、どんな変形していきました。おばあちゃんの手と足の関せつはふくらんでいて、見ただけで病気というのが分かるようになっていました。

母が中学生になった時、母たち兄弟の習い事のお金のために、おばあちゃんはコンビニにはたらきに出だしたそうです。コンビニでお客様におつりを返す時に、おばあちゃんが手わたそうとすると、お客様がいやな顔をして手を引くことめたそうです。おばあちゃんはそのを見て、「あー、やっぱりこの手は気味が悪いと思われるんだ・・・」と思つたそうです。そして、すご

く悲しい気持ちになったそうです。その事があってから、おばあちゃんは写真に写る時、手を後ろに回してぎゅっとに手が写らないようにしています。ぼくは、おばあちゃんの手を見て、手を引くこめたお客様のしたことは「差別」だと思います。

おばあちゃんは、病気になりたくてなったわけではありません。世の中には、生まれつき障がいのある人たちもたくさんいます。おばあちゃんのように、とつ然病気になり、障がいが残る人もいます。おばあちゃんの体験した話を母から聞いて、ぼくは、見た目だけで人を差別するような人にはぎゅっとににならないようにしようと思いました。おばあちゃんは、よく、

「障がいのある人は、不自由なだけで他の人たちと何も

変わらない。」
と言っています。

ぼくは、障がいがあるからといって、それをかくすことはないと思います。障がいのある人たちが、障がいのある人をこうきの目で見ることから差別が生まれるのだと思います。ぼくは、障がいのある人がこまっていたら手助けができる人になろうと思います。一人ひとりがそう心がけて「差別」のない世の中になってほしいと願います。





佐礼谷小 4年 北岡 杏奈



北山崎小 4年 二宮 羽月

本当のバリアフリー

郡中小学校

五年 向井 結音

私は、姉と手話を習っています。手話に特に興味があったわけではなく、姉にさそわれて、一年生の夏休みに近くの手話サークルに出かけたことがきっかけです。そして、四年生の総合的な学習の時間に、「ふくし」をテーマに学習してから、手話に対する私の気持ちも少し変わってきました。

手話教室では、初心者、中級者、上級者に分かれて勉強していきます。初心者、指文字や数字、あいさつなどを覚えます。中級者は、手話で実際に表現したり、読み取ったりします。上級者になると、耳の聞こえない方とコミュニケーションをとる活動もします。

今年の夏休みに手話教室に参加した時、耳の不自由な方に質問するコーナーがあり、私が「耳が聞こえなくて不便だったのは、どんなことですか。」とたずねると、「昔は、ふみ切りにしゃ断機がなくて、けい報音しか鳴らなかったので、私は、電車が来ていることが分からず、わたろうとしました。そして、電車が止まってしまいました。たくさんの人に見られていて、はずかしい思いをしました。」と、答えてくださいました。私は、その話を聞いて、まず、電車が止まってくれてよかったなと思いました。また、耳が聞こえないことで、こわい思いをしたんだなと思いました。ふみ切りのけい報音が聞こえなくて、電車にひかれてしまったらと思うと、悲しくなります。ふだん意識しないけれど、今

まで気付かなかったしや断機の大切さが分かりました。

私たちが、日常生活の中で当たり前と思ってほとんど気に留めていないようなことの中にも、目や耳の不自由な方々にとっては、命を守るためになくはならない物が他にもあると思います。私は、すぐに点字ブロックを思い出しました。点字ブロックの役わりを知るまでは、何のための物か分からず、そのもようで遊んだこともありました。今は、その上に物や自転車を置いたりしてはいけないことも知っています。

私たちは、便利になるようにいろいろな物を作り出していますが、それらは本当にみんなにとって便利なものになっているでしょうか。ふみ切りの例のように、その立場になってみなければ気付かない不便さや、

体の不自由な方々にとっては使いにくい物もたくさんあるのではないでしょうか。

便利なしせつや物を作ることも大切なバリアフリーですが、周りの人が本当に思いやりをもって、相手の立場に立って、その時に必要な手を差しのべることこそが、本当のバリアフリーにつながると思います。私は、これからも手話を続けて、もし耳の不自由な方が困っていたら、ぜひ手話で会話したいと思います。だけれども、自分にも何かできることがないかという気持ちで生活し、本当のバリアフリーが実現できたらうれしいです。



下灘小 5年 津田 乃々馨

優秀作品 小学5年生



北山崎小 5年 神足 祐妃

コロナに負けない

伊予小学校

六年 松岡 莉乃

今、コロナウイルスに感染してしまった人への差別が問題になっている。私はどうしてこのような差別が起こるのかを考えてみた。

調べてみると、様々な差別の実態がわかった。例えば、悪意のあるうわさを広められた人がいた。この人は、コロナウイルスにかからないよう万全の対策をしていたのにも関わらず、「夜中、遊び回っていた」といううわさを広められたようだ。こんなことをされては、病気のダメージもあるのに、精神的にも追いつめられてしまう。本当にこの人は夜中に遊び回っていたのだろうか。私が調べた情報も直接、見たわけでも話を聞いたわけでもない。ただ、理

由がそんなに必要なのだろうか。感染した理由がどうであれ、差別するのはやっぱりおかしいと私は思う。相手を傷付けるのではなく支えてほしい。

また、感染してしまったことで仕事を辞めさせられた人もいた。感染した人にも家族がいる。生活していくためには、仕事をし、お金をかせがなくてはいけない。仕事を辞めさせられるということは、その人だけでなく家族全体が困るということだ。職場が感染した人を助けてほしい。いや、守ってほしい。

調べていくうちに、人はこわいと感じるようになった。もし、自分や私の家族がこのような差別にあったら、私はたえられない。

「子どもの三十二パーセント、新型コロナウイルス感染、秘密にしたい」これは、七才から十七才までの子ども

もと保護者を対象にしたアンケート調査の結果だ。この理由の多くは、「子どもの間でうわさが広まり、いじめにつながるってしまうのではないか」ということであった。この気持ちはよくわかる。私もそうしたい。いじめが何よりこわいから。

コロナウイルスの感染拡大によって、人々は不安な日々を送っている。調べてみたことだが、その不安の原因は、自分や自分の大切な人が感染したことをきっかけに不幸になってしまうことをおそれているからだとわかった。コロナの本当のおそろしさは、このおそれを引き起こすことのような気がしてきた。

では、どうすれば、コロナに負けないのだろうか。私は次のように考えた。まず、家族や先生など、相談できる人をつくることだ。つらさはき出す相手がいるこ

とで、気持ちはずいぶん楽になると思う。次に、支えてくれる友達をつくることだ。親友のように一人でも自分の味方でいてくれる友達がいれば、勇気がわくと思った。そして最後は、みんなが差別に反対する空気をつくることだ。差別を許さず、おかしいといえる仲間が多くいれば、差別の声は行き場を無くしていくと思う。

今回、コロナウイルスに関する差別について考えてみると、対策は私のすぐく身近にあった。家族、友達、そして仲間を大切にし、何かあったときに当たり前に支え合う。そんな関係を大事にしたい。





伊予小 6年 重松 唯愛



北山崎小 6年 名越 佳音

違いの尊重

双海中学校

二年 岡 奏音

私は人権の尊重されない世の中が嫌いだ。生徒間のいじめ、女性や外国人に対する偏見や差別、他にも理不尽な問題はたくさんある。誰もがそれはいけないことだと分かっているはずだ。それなのにどうして、こんなにも解決できないのだろうか。

私は以前、ショッピングモールに行った時にアジア系の外国人の方とすれ違った。女性三人ほどで外国の言葉を話していたため、周囲にいた他の客にもそのことが分かったのだろう。すると、外国人客の近くにいた女性二人が彼女らのそばを離れ、顔を見合わせながらクスクスと笑って何やら

小さな声で話した。私はこの一場面を見ていて、すごく不快な気持ちになった。無性に怒りも込み上げてきた。こんな身近な所にも差別があるのだということを自分の目で見て実感し、驚きとショックで心臓の鼓動がどんどんと早くなり、収まらなかった。一瞬だけ見えた女性客二人の顔を思い出すと、今でもまるで自分に向けられたもののように胸が痛む。

その出来事以来、私は今までずっとこんな行動はいけないと思うてきた。私にそんな差別の心はないと思っていた。でも、授業で外国の方に対する差別がテーマのビデオを見たときに、私にもそんな心があったのではと考えた。あの時の私は、行動に出さなかっただけで、女性客二人と同じような偏った見方を自分でも気付かないうちに行っていたのではないか。その考えに思い

当たった時、かすかに納得してしまおう自分がひどく情けなく、これまで彼女らに抱いていた怒りが全て、自分に向けられていくのを感じた。

私はこの一連の出来事を踏まえ、もう一度どうして差別はなくならないのか考えた。きつと誰にでも心の隅で偏見を抱いてしまう一瞬はあるだろう。私もこれまでに知らない所できつと多くの人に対して偏見を抱いてきた。そしてその一瞬の偏見が急激に加速し、膨らんでいくのは「集団」になったときだ。人はそれぞれ様々な集団に属し、生活している。集団にいるということとは結構難しいもので、当たり前前にそこにいられる人もいれば、そつでない人もいる。それは集団の中の一人ひとりにも「違い」があるからだ。「違い」が偏見になり、差別につながることは多々ある。だけど、だからといってその違

いを壁だと捉えてしまつては、いつまでたつても現状は良くならない。そんなにその違いがいけないことなのだろうか。私は違つていてもいい、違っているからこいい、「違い」という壁なんてどこにもないのだと発信していける人でありたい。そして壁のない新しい世の中に手を伸ばしたい。自分の中にある思いが集団に飲み込まれてしまわぬように、一人ひとりが手を取り合つて社会を作つていくことが大切なのではないだろうか。



優秀作品 中学生 高校生



伊予農高 1年
明日 珠菜



伊予農高 1年
宮崎 れもん



港南中 2年
高田 綾香

人権標語 最優秀作品

◆うれしいよ

いっしょにあそぼう そのことば

由並小 一年 福岡 壺花

◆ゆうきとやさしさをつよさ

みんなで分けあえば
しあわせいっぱい

南山崎小 二年 窪田 ロナ

◆どうしたの

一人でなやまず 教えてね

翠小 三年 金沢 龍醒

◆「ありがとう」

心と心の あい言葉

下灘小 四年 三井 音奈

◆マスクでも

にっこり笑顔 伝わるよ

郡中小 五年 水口 胡都

◆やめようよ

見て見ぬふりも いじめだよ

郡中小 六年 坂本 萌恵

◆「ふざけていただけ？」 本当に？

相手の気持ち考えよう

伊予中 一年 岡田 夏歩

◆あいさつは 心と心を 繋ぐ道

伊予中 二年 日野 心愛

◆今動こう

「被」差別を断ち 「非」差別へ

港南中 三年 佐川 夢翔

◆気付いてよ

誰かの笑顔 消えてない？

伊予農高 二年 清水 友唯

◆シトラスリボン

人との絆 ほどこめように

翠小PTA 桑田 純子

受賞

おめでとうございます

令和3年11月9日に、愛媛県人権・同和教育研究大会が開催されました。全体会では、武智利博さんが、人権尊重の社会づくりに歴史の視点から長年にわたり熱心に取り組み、地域の人権意識の高揚と人権・同和教育の推進に尽力された功績により、人権・同和教育推進功労者知事表彰の栄に浴され、受賞者3名を代表して謝辞を述べられました。



【表彰式の様子（左端が武智利博さん）】

（写真 県人教提供）

優秀入賞者

人権標語の部（一般）

南山崎小	PTA	鶴間	栄子
北山崎小	PTA	藤本	ひかり
北山崎小	PTA	大西	雅代
郡中小	PTA	大廣	美香
郡中小	PTA	曾我部	祐紀
中山小	PTA	高木	幸子
下灘小	PTA	金山	亜季
港南中	PTA	田頭	孝志
郡中地区公民館		山下	宏邦
中山地区公民館		高市	礼子
双海地区公民館		二宮	莉穂

人権標語の部（児童・生徒）

伊予小	一年	阿部	翔愛
翠小	一年	セーチャン	ジエニパト
由並小	二年	岡田	まひる
佐礼谷小	二年	井川	音和
郡中小	三年	池原	陸翔
中山小	三年	石丸	昊龍
伊予小	四年	松田	遥輝
北山崎小	五年	神足	祐妃
郡中小	五年	井上	菜花
南山崎小	六年	鶴間	なずな
伊予小	六年	仙波	千尋
港南中	一年	岡田	柊陽
中山中	一年	東岡	月輝斗
港南中	二年	壬生	朋花
双海中	二年	伊藤	優希
港南中	三年	亀井	茉尋
双海中	三年	中島	ヒカル
伊予農高	一年	向井	敷温
伊予農高	三年	梶原	元

人権作文の部

差別のない世の中に	郡中小	四年	大西	琴
手をさしのべられる人になりたい	郡中小	五年	和田	瑞希
差別のない社会	下灘小	六年	栗坂	侑愛
いじりといじめ	伊予中	三年	向井	元脩

人権詩の部

わたしのお兄ちゃん	郡中小	四年	橋本	京采
相手の気持ち	佐礼谷小	五年	福岡	絆
世界を笑顔に	伊予小	六年	戸井田	奏芭
区別と差別	中山中	一年	柿原	翔音
みんなの個性	中山中	三年	奥岡	穂乃佳